

■高校野球のケーススタディー（第2回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合に生じたプレイの中で、“こんなプレイ、どうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 投手が投球動作の途中で足を滑らせて転倒してしまいましたが・・・

第101回選手権兵庫大会での出来事。

1回表 先頭打者への2球目の投球でのことです。投球動作に入った投手（右投げ）が自由な足（左足）を踏み出したときに、足を滑らせて転倒しました。そのとき、ボールは投げ手に保持したままでした。攻撃側から伝令が出てきて「反則投球で“ボールカウント”になるのではないかと確認したようですが・・・ルール上、どうなるのでしょうか？

投手が投球動作の途中で転倒し、投球ができなくなったケースです。

ルール上の解釈としては、①走者が塁上にいるかどうか、②ボールが投手の手を離れたかどうかで取扱いが異なります。

事例のケースでは、先頭打者であったことから、①走者は塁上になく、②投手が転倒したとき、投げ手にボールを保持したままでした。

この場合は、投球とみなされないので、投球はカウントされません。つまり、ストライクにもボールにもならないこととなります。（公認野球規則 6.02(b)〔原注〕）

球審は、これらのルール適用について伝令を通じ監督に伝え、理解してもらいました。



①もし、走者が塁上にいないケースで、ボールが手から離れていたらどうなるのでしょうか？

公認野球規則では、ボールがファウルラインを越えたとき、「ボール」を宣告することになります。ファウルラインを越えなければカウントは記録されずに投球を改めて行うこととなります。

②では、走者が塁上にいる場合は、どうなるのでしょうか？

ボールが投手の手から落ちたとき、ただちに「ボーク」となります。（6.02(a)(11)、6.02(b)〔原注〕）また、投手がボールを離さずに保持していたとしても、転倒したことで投球に関連する動作を起こしながら投球を中止したことになり、「ボーク」が適用されることとなります。（6.02(a)(1)）状況が少し違うことによって、ルールの適用が大きく変わってくるのが分かりますね。

表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科

坂田 朋葉さん（2年）

飛田 紀香さん（2年）